

大阪府教育委員会教育長 様

梅花高等学校
校長 太田 仁

学校経営推進費 評価報告書 (2年目)

標記について、下記のとおり提出します。

1. 事業計画の概要

実施課程名	全日制の課程
取り組む課題	A 英語教育の充実
評価指標	・年度内に2度実施する生徒対象学校評価アンケートにおける満足度の向上 ・英語検定の評価 (準2級の合格率) の向上
計画名	「英語の梅花」学力向上プロジェクト

2. 事業目標及び本年度の取組み

学校経営計画の 中期的目標	1. 英語教育力の向上 ・学習指導要領第2章第8節目標を達成する為に音声指導にも有効であるICT機器 (電子黒板) を整備する。 ・英語教員のスキルアップのためにベルリッツ・ジャパンと教育連携を結び、電子黒板を用いた授業のコンテンツや教授法の研究を行う。 ・全校生徒の希望者 (初年度は高1のみ) を対象に実施する特別講座に積極的に教員自身も参加することにより先進的でインタラクティブな欧米式の教授法習得を目指す。 ・上記で習得した電子黒板と教授法を用いた研究授業を積極的に実施し、通常の授業にフィードバックさせる。
事業目標	「英語教授法の改善」のためにICT (電子黒板) を積極的に活用し、英語の4技能の学力向上を目指す。同時にベルリッツ・ジャパンの教授法を教員が習得することにより生徒の授業満足度と英語力の向上をめざす。 <数値目標> (目安として高校1年生を対象とする) ・受講生に対し満足度調査を実施し、「先生の授業は内容も適当でわかりやすい」「資料や映像を使って興味がわくような工夫をしている」の指標3.4ptを目指す。(満点4.0pt) ・2016年1月実施の英語検定準2級を受験者の25% (国際コースは50%) の合格を目指す。以降は単年度ごとに5%上昇させ、2年後には35% (国際コースは60%) を達成する。 ・3年目以降はそれぞれ40%、70%以上の合格を目指す。
整備した 設備・物品	電子黒板機能付プロジェクター (超短焦点) 9台、ベルリッツ・ジャパンとの教育連携に対する講師派遣料、ホワイトボード
取組みの 主担・実施者	六室匡司 (副校長)
本年度の 取組内容	昨年度に学校経営推進費により電子黒板機能付プロジェクター (以下電子黒板) を設置した9教室に加え、今年度に新たに文部科学省の「私立高等学校等IT教育設備整備推進事業費」の補助により12教室に電子黒板の追加設置を行った。それにあわせて昨年度より実施している教科主導の電子黒板の使用法についての研修を引き続き実施した。今年度は電子黒板を利用したアクティブラーニングの研究授業を年間4回実施し、参加者数も約100名にも及んでいる。研究授業後には見学した教員にフィードバックシートを作成してもらい、「ICT教育推進委員会」(副校長・教頭を含む) で検証した。研究授業を実施した教員にもフィードバックシートを返却し、個々教員の授業改善の参考にしていく。ベルリッツ・ジャパンとの連携では国際コースで実施しているイングリッシュキャンプをはじめ放課後に英会話講座 (Brush Up English Program) を実施した。導入2年目の今年度は受講者の対象を全学年に拡大した結果、受講希望者が86名となった。当初はレベルチェックを行わず、生徒の申告によりクラスを分けていたが年度途中より習熟度別のクラスに変更した。
成果の検証方法 と評価指標	「Brush up English Program」についてはアンケートを実施し、その結果を検証し、次年度のクラス分けやテキスト選定の材料にする。また、英語検定準2級の合格者を評価指標として採用し、合格率アップにつなげていく。電子黒板については年齢や性別に関係なく専任の全教職員が一定の操作方法を習得することにより生徒への教育サービスの均等化をはかる。
自己評価	電子黒板を設置した教室を増やし、使用方法の研修を充実させたことにより専任教員のみならず非常勤講師の利用率も向上し、現場から全教室に設置を望む声も出てきている。電子黒板導入2年目ではあるが教員がオリジナルの教材を作成したことにより、より工夫された授業を展開するなど電子黒板を有効利用する傾向が顕著になってきた。(評価指標○) 「Brush up English Program」については昨年度の「Brush up English Program」の受講者のアンケート結果では、成績上位者からの満足度がやや低かったため、対策としてアチーブメントテストを年度途中で実施した。現在プログラムが継続しており終了後のアンケートを実施していないが生徒からの評判は良く、アンケートでも満足度の向上が期待できる。(評価指標○) また数値目標としていた準2級合格者は国際コースの生徒110名のうち49名が合格している。目標値が50%なので目標値は下回ってはいるが数字上は昨年度よりも向上している。(評価指標△) 電子黒板については教員より接続ケーブルの追加購入や使用頻度の高い教室 (コース) の中に一部接続不良が見られ改善の要望も出ている。しかし技術的な問題であり充分に対応できる範囲と考える。一方動画や画像を用いたことにより生徒からは「授業がわかりやすくなった。」という意見も多く、2年目の取組み全体としては一定の評価はできる。(評価指標○)
次年度に向けて	次年度は現在電子黒板が設置されていない普通教室への電子黒板設置を計画している。また利用頻度を上げるために年度始めに各教員の使用状況のアンケート調査を行い、実態把握に努める。ICT教育推進委員会が中心となり研究授業を1学期と2学期に実施する。授業でタブレットを利用している国際コース以外にも学校の備品であるタブレットを用いた研究授業を1学期中に行う。小テストに効果的なアプリを用いて小テストを実施している教員を中心として当該アプリ等の実践会を設ける。「Brush up English Program」については習熟度別クラス編成の為に4月にアチーブメントテストを実施し、クラス編成を行う。また今年度は年間30回の授業を週1回実施しているが、中だるみを防ぐ為に長期休暇に特別プログラムを行うなどの緩急をつけた内容に変更する。場合によっては年度途中に再度アチーブメントテストを行い、クラスの再編成を行う。英語検定の結果向上の対策として以下の4点の取組みを行う。①各長期休暇中に2級～4級までの級別の講座を開く。②英語科教員による2次試験対策 (昼休み・放課後) をさらに充実させる。③授業でのリスニング指導を強化する。④例文暗唱を徹底させ、英文構成力を養う。

学校番号